

3 頭の神経型猫伝染性腹膜炎被疑症例の α 1 酸性糖タンパク質及び血清アミロイド A

相馬武久^{1)†}中野康弘²⁾上田紗耶子³⁾高橋邦昭⁴⁾

1) (株)エム・エル・ティー臨床検査部 (〒563-0011 池田市伏尾町 103)

2) 三重県 開業 (南動物病院: 〒518-0007 伊賀市服部町 291-3)

3) KyotoAR 動物高度医療センター (〒613-0034 久世郡久御山町佐山中道 33)

4) 岐阜県 開業 (陽だまりの動物病院: 〒500-8891 岐阜市香蘭 3-11)

(2025 年 3 月 12 日受付・2025 年 10 月 15 日受理・2026 年 3 月 28 日公開)



本文はこちら
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jvma/79/3/79_e29/_article/-char/ja/

要 約

猫伝染性腹膜炎 (FIP) の診断のために α 1 酸性糖タンパク質 (AGP) や血清アミロイド A (SAA) 等の急性期タンパク質 (APP) の血中濃度は有用な指標であり, FIP 症例のほとんどでこれら値の上昇が認められる. しかし, 脳脊髄液を供試した猫コロナウイルス遺伝子検査と抗体検査, 及び頭部磁気共鳴画像検査で神経型 FIP が強く疑われた 3 症例で AGP がそれぞれ, 460, 480 及び 410 $\mu\text{g/ml}$, SAA が全例 $<3.0 \mu\text{g/ml}$ と基準値の範囲内であった. さらに主要な血液学, 生化学検査値の変動はほとんどみられなかった. 以上の成績から FIP の病変が中枢神経系に局限している例では APP 値が健常猫の基準値を逸脱しない場合があることが示唆された.

——キーワード: 急性期タンパク質, 中枢神経系, 猫伝染性腹膜炎.

----- 日獣会誌 79, e29~e34 (2026)